

防耐火設計から考える 中高層木造の現在地とこれから



2025年 2月12日

竹中工務店 参与 木造木質建築統括
日本ウッドデザイン協会 代表理事
松崎 裕之

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

ダイジェスト版

本日の目次

1. 世界の潮流である木造建築 – なぜ、木造建築なのか？ –
2. 国内の木造建築について – 木造建築の現状 –
3. 木造木質建築の設計について – 防耐火基準から考える –
4. 木造木質建築の事例 – 中高層木造建築を中心に –
5. 木造木質化のすすめ – ポジティブインパクトなど –

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

1

- 木造建築が、いま世界の潮流
- ウッドファースト、まず木材が使えないか



カナダ
バンクーバー

Brock Commons
2017年完成 学生寮
18階 高さ57.9m 延床面積 約15,000㎡

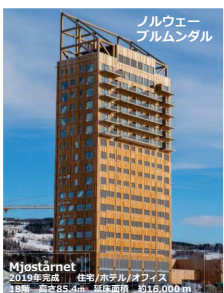
<https://gla.gov.org/wp-content/uploads/2018/06/CLT-Guide-PDF.pdf>



アメリカ
ミルウォーキー

Ascent
2022年7月完成 住宅
25階 高さ66.6m 延床面積 約35,740㎡

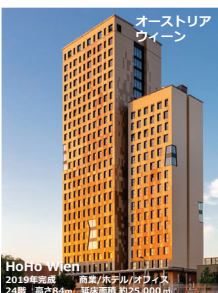
<https://www.kaa-arch.com/php/page-projectLoader.php?project=135>



ノルウェー
ブルムンダル

Mjøstårnet
2019年完成 住宅/ホテル/オフィス
29階 高さ85.4m 延床面積 約16,000㎡

<https://www.dezeen.com/2019/03/19/mjostar-net-worlds-tallest-timber-tower-vol-arkitekt-norway/>



オーストリア
ウィーン

HoHo Wien
2019年完成 商業/ホテル/オフィス
24階 高さ64m 延床面積 約25,000㎡

<https://www.hotelundtouristik.at/hotel/news/dormero-hoho-wien-ist-eroeffnet-67706>

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

2

- サステナブル社会の実現
- 気候変動対策
- パリ協定で求められる脱炭素社会



Nations Unies
Conférence sur les Changements Climatiques 2015
COP21/CMP11
Paris, France

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

3

- 森林活性化による CO₂吸収
- 成長した木は CO₂吸収力低下
→ 伐って使って CO₂固定化
- 循環資源の木材利用
→ サステナブル社会の実現



©Copyright 2025,Takenaka Corporation

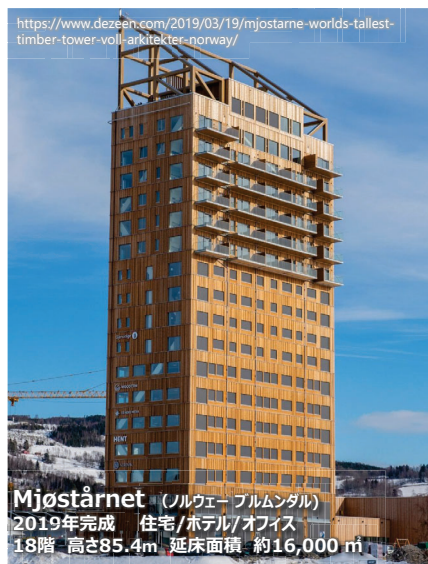
4

- SDGs : 持続可能な開発目標
- ESG投資 : 環境E/社会S/企業統治G 社会的責任投資



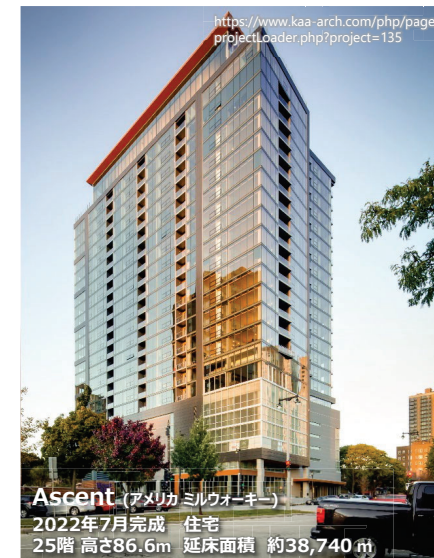
©Copyright 2025,Takenaka Corporation

5



©Copyright 2025,Takenaka Corporation

6



©Copyright 2025,Takenaka Corporation

7



©Copyright 2025,Takenaka Corporation

8

● 海外における木造建築のメリット

出典 Urban社ホームページ
https://www.eurban.co.uk/

**30%
軽量化**

木材重量は鉄筋コンクリートの
1/5であり、建物全体の
重量は30%減となる

**25%
短工期**

木造建築のための工事は
鉄筋コンクリート造の
25~40%程度短い

**10%
低コスト**

木造建築は鉄筋コンクリート造と
比較して10%程度安価

**85%
交通量減**

工事車両など交通量を
85%削減
近隣地域の渋滞などが減少

**40%
CO2排出量減**

木造建築は不要な
CO2排出を抑制上で
最も効果的

**100%
カーボンストック**

CO2を建材として100%固定
地球温暖化対策に貢献

- 木造オフィスに入居する企業は、**環境意識が高いとみなされ、ESG投融資の観点から評価が高くなるため、資金調達上有利**
- 木造オフィスに入居する企業には、**若くて優秀な人材が集まる**

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

9

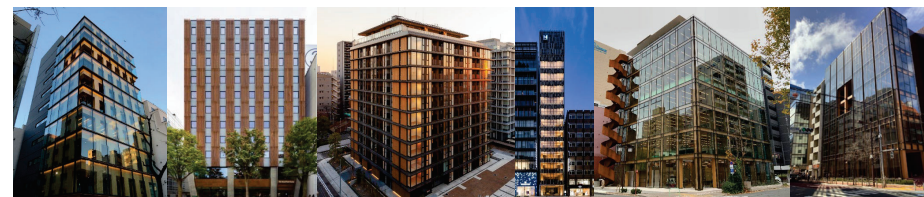
本日の目次

1. 世界の潮流である木造建築 — なぜ、木造建築なのか？ —
2. 国内の木造建築について — 木造建築の現状 —
3. 木造木質建築の設計について — 防耐火基準から考える —
4. 木造木質建築の事例 — 中高層木造建築を中心に —
5. 木造木質化のすすめ — ポジティブインパクトなど —

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

10

- **カーボンニュートラルを目指して**
- **日本でも、いま環境建築としての木造建築が注目**

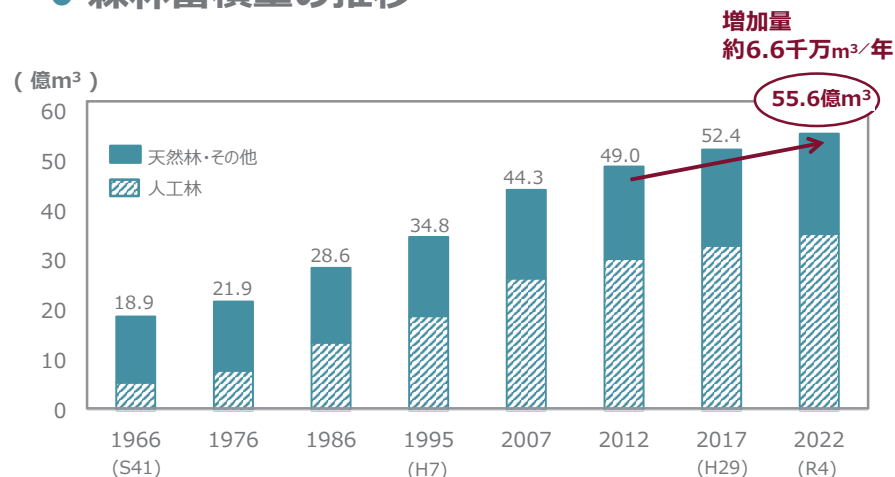


Port Plus (大林組) 三菱地所ザロイヤルパークキャンパス 札幌大通公園(清水建設) FLATS WOODS 木場 (竹中工務店) HULIC & New GINZA 8 (竹中工務店) タマディック名古屋ビル (大林組) ジューテック本社ビル (鹿島建設)

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

11

● 森林蓄積量の推移

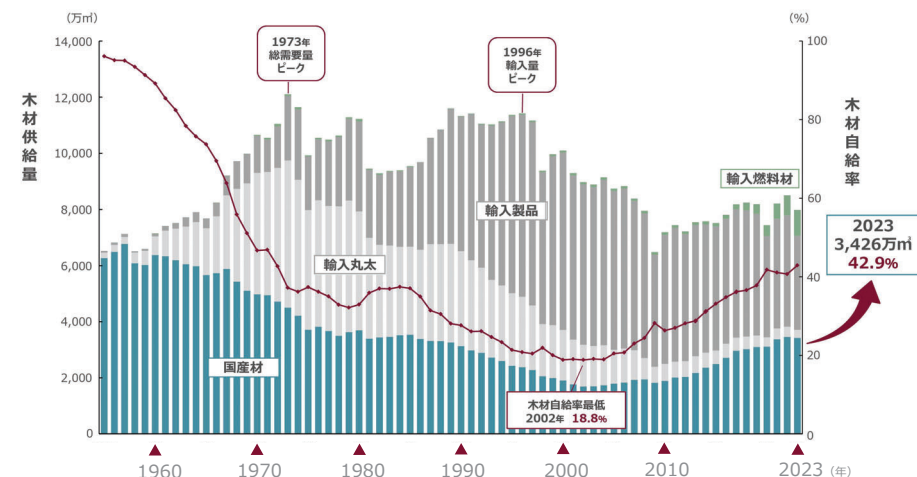


出典：林野庁「森林資源の現況（令和4年3月31日現在）」林野庁ホームページ
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/r4/index.html>
 (参照 2023.11.6)

©Copyright 2025, Takenaka Corporation

12

● 木材供給量と自給率の推移

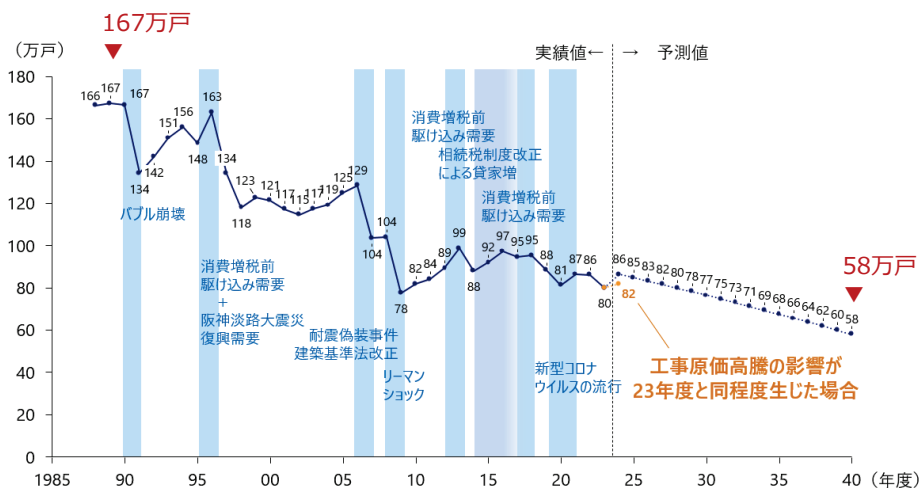


出典：林野庁「木材供給量及び木材自給率の推移」（令和6年9月27日）
 参考：林野庁「令和5年（2023年）木材需給表」

©Copyright 2025, Takenaka Corporation

13

● 新設住宅着工戸数の実績と予測



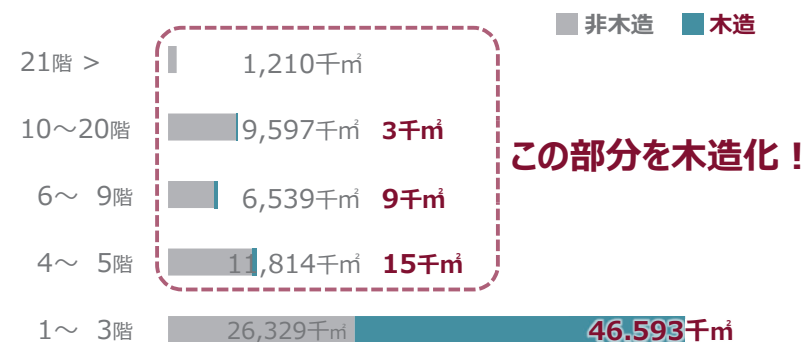
野村総合研究所 2040年度の住宅市場予測 実績値は国土交通省「住宅着工統計」より
https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/news/newsrelease/cc/2024/240613_1.pdf

©Copyright 2025, Takenaka Corporation

14

● 建築市場における木造建築

階層別・構造別の着工建築物の床面積



この部分を木造化！

参考：国土交通省 建築着工統計
 2022（令和4）年度

©Copyright 2025, Takenaka Corporation

15



● なぜ、住宅以外は 木造がこれまで無かったのか？

「木造」の制限・「不燃化都市」を目指した歴史

● 木造建築の持つ価値の変化

2022-23年以降：経営上の戦略に関連する重大な要素に関連

	事業における 木造木質の価値	関連する事業や アクション
過去	<ul style="list-style-type: none"> ・CSR ・ブランディング ・ウェルビーイング 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献事業 ・広報企画 ・社内教育 ・福利厚生
2022～2023年が転換期		
現在	<ul style="list-style-type: none"> ・企業価値のプレゼン ・GHG排出量削減のための ・資金調達 ・人的資源の戦略的獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダー／投資家・金融機関への説明責任 ・情報開示義務への対応 ・取引先を繋ぐバリューチェーン内の緊密な連携

● 木造建築に対するニーズの高まり

ポイント1 環境配慮・ウェルビーイング

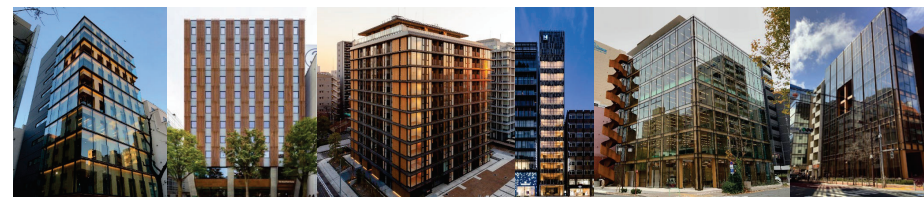
環境配慮・ウェルビーイングへの意識が高まり
木造建物に対する事業者・入居者のニーズによりグリーンプレミアム化

ポイント2 ESG投融資・気候変動関連の情報開示要請

2023年に一気に加速したESG投融資・気候変動関連の情報開示要請
環境配慮の重要度は更に向上

➡ 今後も木造建築へのニーズは
企業規模、地方・都市部の差異なく一層高まる

● 木造建築は、2022-2023年の転換期経て、 新たなステージへ！ 黎明期から普及期に



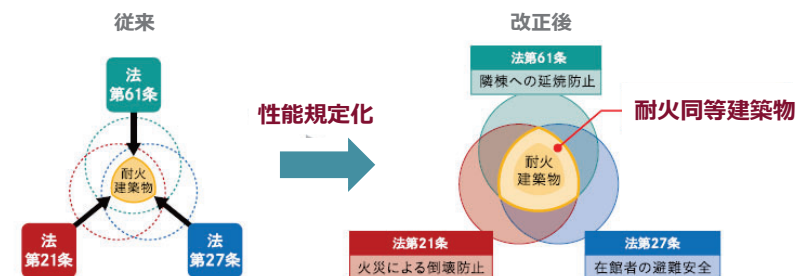
Port Plus（大林組） 三菱地所
ザロイヤルパークキャンパス
札幌大通公園(清水建設)
FLATS WOODS 木場
(竹中工務店)
HULIC &New
GINZA 8
(竹中工務店)
タマデック名古屋ビル
(大林組)
ジューテック本社ビル
(鹿島建設)

本日の目次

1. 世界の潮流である木造建築 — なぜ、木造建築なのか？ —
2. 国内の木造建築について — 木造建築の現状 —
3. 木造木質建築の設計について — 防耐火基準から考える —
4. 木造木質建築の事例 — 中高層木造建築を中心に —
5. 木造木質化のすすめ — ポジティブインパクトなど —

● 木造木質建築を設計するポイント ①

- 木造木質建築を設計するには、**防耐火基準の仕組みを理解し、そしていかに読み解くかがポイント**
- 耐火性能の見極める、「耐火」「準耐火」「その他」建築物のどれか？
設計する建物の面積・階数・用途・地域の規制に適した設計手法の選択
- **地域**（法61条）・**用途**（法27条）・**規模**（法21条）により決定
延焼防止・避難安全・倒壊防止、これら全てを要満足



● 木造木質建築を設計するポイント ②

- **防火地域**では、4階建以上は、**耐火建築物**
2階建以下・延床100㎡以下は、**準耐火建築**
その他建築は不可 地域
- **準防火地域**では、延床3,000㎡を超えれば、**耐火建築物**
3階建以下・延床1,500㎡以下は、**準耐火建築**等
2階建以下・延床500㎡以下は、**その他建築** 地域
- 延床3,000㎡を超えれば、**耐火建築物**
高さ16m・3階建以下・延床3,000㎡以下は、**その他建築**
面積制限の回避、壁等の設置または別棟扱い 規模
- **準耐火構造の範囲拡大、耐火同等建築物**（2019年～） 地域 用途 規模
木三学・木三共・75分準耐火・火災時倒壊防止・避難時倒壊防止・延焼防止建築など
- 困ったら、オールマイティの**耐火建築物** 地域 用途 規模
今や木造で設計できない建物はない
- **木質化**には、**内装制限**（法128条）を確認
燃え拡がり・フラッシュオーバー抑制

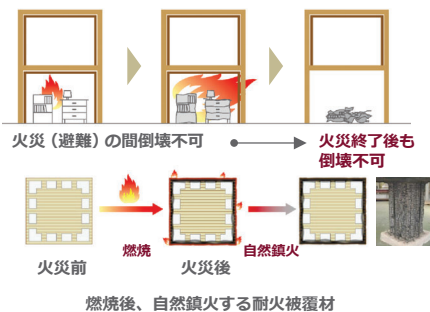
● 参考文献



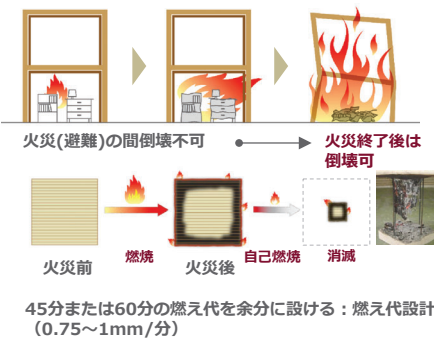
- 発行：（一社）木を活かす建築推進協議会
URL: <http://www.kiwoikasu.or.jp/>
ダウンロード可 最新 令和3年3月版

● 耐火構造と準耐火構造

耐火構造とは



準耐火構造とは



- 海外は準耐火構造が標準、耐火構造は日本のみ
- 日本は世界一厳しい防耐火基準、特に耐火構造

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

24

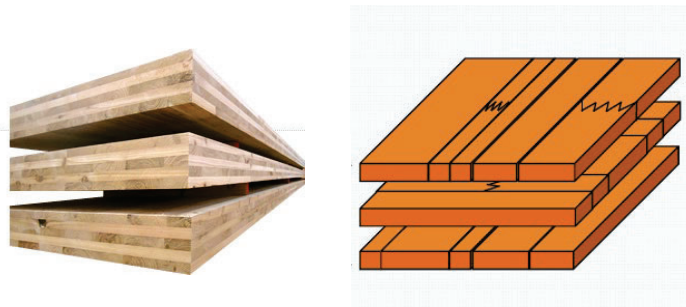
● 耐火集成材 燃エンウッド



©Copyright 2025,Takenaka Corporation

25

● CLT (Cross Laminated Timber = 直交集成板)



- 繊維方向が直交するように積層接着したパネル
- 1990年代欧州で開発、現在は建築材料として普及
- 建物の床壁材への適用

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

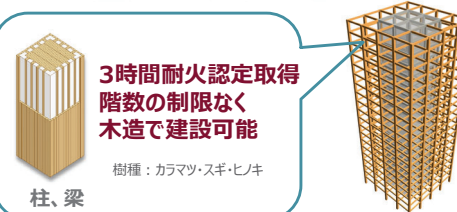
26

● 中高層ビルを木造建築に！

● 燃エンウッド® 柱・梁・CLT耐力壁



● CLT活用技術



©Copyright 2025,Takenaka Corporation

27

本日の目次

1. 世界の潮流である木造建築 – なぜ、木造建築なのか？ –
2. 国内の木造建築について – 木造建築の現状 –
3. 木造木質建築の設計について – 防耐火基準から考える –
4. 木造木質建築の事例 – 中高層木造建築を中心に –
5. 木造木質化のすすめ – ポジティブインパクトなど –

PARK WOOD 高森 2019.2完成

宮城県仙台市・集合住宅・地上10階・延床面積 3,605m²



- ・法22条地域
- ・共同住宅・特殊建築物
- ・耐火建築物

- 日本初の高層木造建築
- CLT床壁・2時間燃エンウッド柱の採用

兵庫県林業会館 2019.1完成

兵庫県神戸市中央区・事務所・地上5階・延床面積 1,567m²



- ・防火地域
- ・事務所：非特殊建築物
- ・耐火建築物

- 鉄骨造+現しCLT耐震壁
- 街中の木造ショールーム

フラッツ ウッズ 木場 2020.2完成

江東区・共同住宅・地上12階・延床面積 9,150 m²

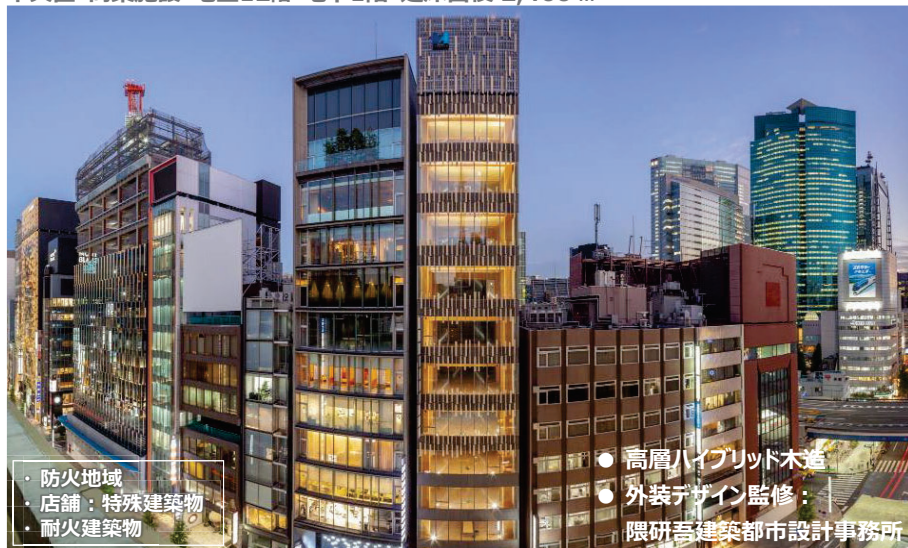


- ・準防火地域
- ・共同住宅・特殊建築物
- ・耐火建築物

- 2時間燃エンウッドの採用
- CLT床・CLT耐震壁の採用

HULIC & New GINZA 8

中央区・商業施設・地上12階・地下1階・延床面積 2,460 m²



・防火地域
・店舗：特殊建築物
・耐火建築物

● 高層ハイブリッド木造
● 外装デザイン監修：
隈研吾建築都市設計事務所

©Copyright 2025, Takenaka Corporation

32

水戸市民会館

2022年10月完成

茨城県水戸市・市民会館・地上4階・地下2階・延床面積 約23,232m²

基本設計：伊東豊雄建築設計事務所
横須賀満夫建築設計事務所共同企業体



防火地域
劇場・店舗：特殊建築物
耐火建築物

● ECI方式入札工事
● 燃エンウッドオープン化の初採用

©KAI NAKAMURA

©Copyright 2025, Takenaka Corporation

33

竹中研修所 匠 新館

2018年完成

兵庫県川西市・教育施設・地上3階・地下1階・延床面積 1,209 m²



・地域指定なし
・研修所：特殊建築物
・I-1準耐火建築物

● CLTパネル工法

©Copyright 2025, Takenaka Corporation

34

警固竹友寮

2023.2完成

福岡県福岡市・共同住宅・事務所・地上5階・延床面積 919m²



・準防火地域
・共同住宅：特殊建築物
・耐火建築物

● 鉛直部材をCLTとしてCLT壁式構造
● 2時間耐火燃エンウッドCLT耐力壁の初採用

©Copyright 2025, Takenaka Corporation

35

竹中工務店

北海道地区FMセンター 2021.11完成

北海道札幌市・事務所・地上2階・延床面積 856m²



- ・法22条地域
- ・事務所：非特殊建築物
- ・その他建築物

- 低層・低コスト木造建築
- 一般流通材利用による木造建築
- 鉄骨造と比較し、建設時CO₂排出量7割削減

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

36

立命館アジア太平洋大学 Green Commons

大分県別府市・学校施設・地上3階・延床面積 6,496 m²

2023.2完成



- ・地域指定なし
- ・学校：特殊建築物
- ・準耐火建築物（木三学）
- ・学校：内装制限の対象外

- 鉄骨造+木造の別棟建築
- 木三学

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

37

竹中育英会学生寮 2023年8月完成

練馬区・寄宿舎・地上2階・延床面積 746 m²



- ・準防火地域
- ・寄宿舎：特殊建築物
- ・ロ-1準耐火建築物

- 壁式RC造+木造
- 一般流通材利用によるローコスト木造建築
- DLTによる壁型枠ユニット工法の開発適用

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

38

広島銀行十日市支店 2023年11月完成

広島県三次市・事務所・地上3階・延床面積 1,962 m²



- ・法22条地域
- ・事務所：非特殊建築物
- ・イ-1準耐火建築物

- RC造+S造+木造 ハイブリッド木造建築
- 広島県「建築物の木材利用促進に関する協定」締結
- 広島県産杉材の利活用

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

39

エア・ウォーターの森 2024年10月完成

北海道札幌市・事務所・店舗・地上4階・延床面積 8,444 m²



- 木造・一部S造 ハイブリッド木造建築
- 燃エンウッド斜め柱・燃エンウッド梁の採用

- 準防火地域
- 事務所：非特殊建築物
- 耐火建築物

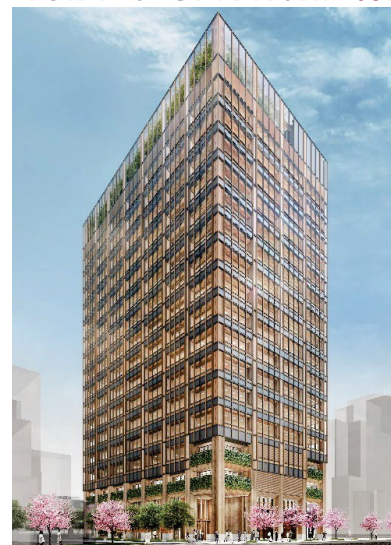
©Copyright 2025,Takenaka Corporation

40

三井不動産 日本橋本町一丁目3番計画

東京都中央区・事務所・商業施設・高さ84m・地上18階・延床面積 約28,000m²

2026年度完成予定



- 国内最大・最高層の木造建築
- 設計・施工 竹中工務店
- 2024年1月着工 現在工事中

完成予想パース 提供：三井不動産・竹中工務店

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

41

(仮称) 東京海上ビルディング計画

2028年8月 完成予定

千代田区丸の内・事務所・高さ 約107m・地上20階・地下3階・延床面積 約124,000m²



- 設計 Renzo Piano Building Workshop
三菱地所設計
- 施工 竹中工務店他JV
- 2025年3月着工

©Renzo Piano Building Workshop, architects in collaboration with Mitsubishi Jisho Design Inc.

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

42

2025年大阪・関西万博



- 2025年4月13日万博開催
- 木材量、20,000立方メートル超
- 閉会後の木材リユース検討要

提供：2025年日本国際博覧会協会

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

43

本日の目次

1. 世界の潮流である木造建築 – なぜ、木造建築なのか？ –
2. 国内の木造建築について – 木造建築の現状 –
3. 木造木質建築の設計について – 防耐火基準から考える –
4. 木造木質建築の事例 – 中高層木造建築を中心に –
5. 木造木質化のすすめ – ポジティブインパクトなど –

● 木材は、複数分野にまたがるポジティブインパクト

脱炭素社会への貢献



- ・ 二酸化炭素固定
- ・ 加工、輸送、運用時の排出量削減
- ・ 解体・再利用の可能性
- ・ 造林・再造林を通じての循環型資源活用

環境保全・森林・国土保全



- ・ 森林の適正な管理の促進
- ・ 生態系の保全=生物多様性
- ・ 水害レジリエンスの向上

林業の再活性



- ・ 国産材・地域材の積極活用（林業を含む経済循環）
- ・ 林業サプライチェーン充実に伴う地域活性化

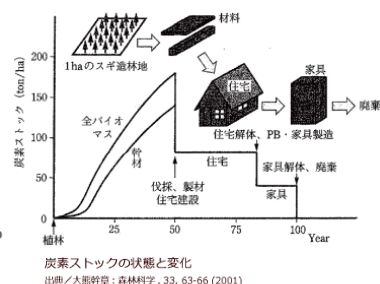
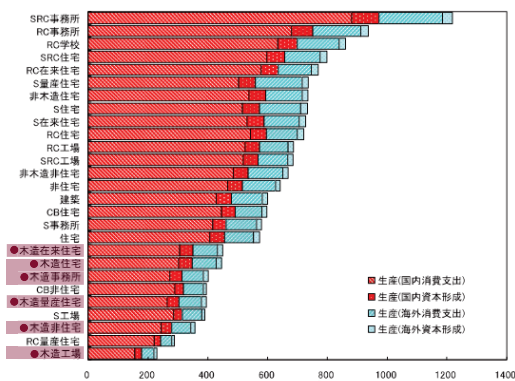
木材の生理効果効用



- ・ 利用者のウェルビーイング
- ・ 従業員の定着率や職場環境への満足度向上

出典（一部改訂）：<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00461/022400064/?P=2>

● 構造種別の建設時CO₂排出量比較

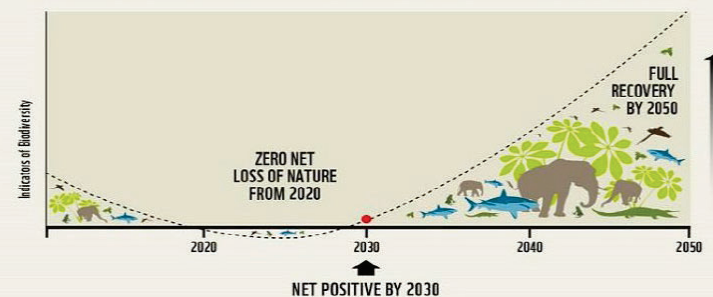


- 木造建築は、RC造S造に比べ建設時CO₂排出量が少ない
- 木材によるCO₂固定化
- 計画伐採と適正森林管理による森林CO₂吸収能力

● ネイチャーポジティブ：生物多様性の減少から回復へ

2023年9月 TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）が公開

Global Goal for Nature: Nature Positive by 2030



（出所）A Global Goal for Nature: Nature Positive by 2030 <https://www.naturepositive.org/>

- 今後TCDF同様に、TNFDによる情報開示の義務化
- 木造建築は、脱炭素と生物多様性保全・向上の両立が可能



一般社団法人日本ウッドデザイン協会
会長：隈研吾

もっと、木と語ろう。

もっと、木と遊ぼう。

もっと、木と学ぼう。

もっと、木とふれ合おう。

もっと、木と暮らそう。

もっと、木と



<https://www.jwda.or.jp/>

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

48

— 第10回 —



JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2024

ウッドデザイン賞

2024



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2024



ウッドデザイン賞2024 最優秀賞
(経済産業大臣賞)

自然へのホスピタリティと森の中の工場/ナニックジャパン株式会社、株式会社万建設興業、那須塩原市森林組合



ウッドデザイン賞2024 最優秀賞
(国土交通大臣賞)

DLT恒久仮設木造住宅/坂茂建築設計、株式会社 家元、一般社団法人 石川南建築連、株式会社 農谷川南治商店、NPO法人ポランタリー・アーキテクツ・ネットワーク



ウッドデザイン賞2023 最優秀賞
(農林水産大臣賞)

林業×福祉連携プロジェクト「森tobacco」/パワーブレイス株式会社、社会福祉法人 幸仁会川本園、NPO法人 木育・木づかいネットワーク

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

49

ラベルとは何か

Japan Wood Label



Wood Carbon Label



一般社団法人日本ウッドデザイン協会は、2024年5月、林野庁よりJapan Wood LabelおよびWood Carbon Labelの管理団体として認定を受け、2024年10月1日より運用管理を開始しました。

木材を活用したオフィス、商業施設、公共施設などといった建築物や内装、木材を使った家具や小物といった製品などで、ラベルを使っています。

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

50



Wood Carbon Labelと
Japan Wood Labelって何ですか？

Japan Wood Label



Japan Wood Label(以下、「JWL」)は、日本の木を使っている建築、空間、製品を判別するためのマークです。

Wood Carbon Label

Wood Carbon Label(以下、「WCL」)は、木を使った建築、空間、製品がどのくらいの炭素を貯めているのかを知ってもらうためのマークです。



©Copyright 2025,Takenaka Corporation

51

● 建築物への木材利用に係る評価ガイドンス（林野庁）

事業者が投資家や金融機関に対し、建築物への木材利用の効果を適切かつ積極的に訴求できる環境の整備ため、
ESG関連情報開示の動向を踏まえた評価項目・方法の策定

評価分野	評価項目 (建築事業者等が行う取組)	評価方法
1. カーボンニュートラルへの貢献	① 建築物のエンボディードカーボンの削減	✓ LCAにより算定した、建築物に利用した木材の製品製造に係るGHG排出量を示す。
	② 建築物への炭素の貯蔵	✓ 林野庁「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」により炭素貯蔵量を示す。
2. 持続可能な資源の利用	① 持続可能な木材の調達（デュアリティの実施）	✓ 利用する木材について、以下を確認していることを示す。また、i)についてはその量や割合を示す。 i) ①合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（クリーンウッド法）に基づき合法性が確認でき、かつその木材が産出された森林の伐採後の更新の担保を確認できるものであること、又は②認証材（森林認証制度により評価・認証された木材）であることのみが認められること。 ii) サプライチェーンにおいて「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」を踏まえた人権尊重の取組が実施されていること。
	② 森林資源の活用による地域貢献	✓ 地域産材（又は国産材）の利用の有無、利用量や割合を示す。 ✓ 地域産材の活用を目的として、地域の林業・木材産業者と建築物木材利用促進協定等を締結していることを示す。 ✓ 産業連関表を用いて、木材利用による地域経済への波及効果を定量的に示す。
	③ サークュラーエコノミーへの貢献	✓ サークュラーエコノミーの観点から、木材は再生可能資源として評価されるものであることを示す。 ✓ 建築物において循環性（サーキュラリティ）を意識した、例えば以下のような取組を実施していることについて具体的な内容を、可能な場合は定量的に示す。 i) 木材利用により非生物由来の（再生不可能な）パーソン素材の利用を削減している。 ii) 再利用木材（木質ボード等）を活用している。 iii) 解体時の環境負荷を低減する設計を採用している。
3. 快適空間の実現	内装木質化による心身面、生産性等の効果	✓ 建築物の用途等に応じて、訴求度が高い内装木質化の効果を示す。

出展：https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/esg_architecture.

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

52

● 優良木造建築物等整備推進事業（国土交通省）

優良木造建築物等整備推進事業

総統

令和7年度当初予算
住宅・建築物カーボンニュートラル総合推進事業(373.40億円)の内数

カーボンニュートラルの実現に向け、炭素貯蔵効果が期待できる中大規模木造建築物の普及に資するプロジェクトや先進的な設計・施工技術が導入されるプロジェクトに対して支援を行う。

● 補助対象事業者

民間事業者等

● 補助率・補助限度額

【調査設計費】木造化に関する費用の1/2以内
【建設工事費】木造化による増し費用の1/3以内
(ただし、増し費用が総事業費の7%以内)

【補助限度額】合計2億円

※先進的なプロジェクトの場合は、補助率及び補助限度額を引き上げ

● 補助要件

- ① 主要構造部に木材を一定以上使用すること
 - ② 建築基準上、耐火構造又は準耐火構造とすることが求められること
 - ③ 不特定の者の利用又は特定多数の者の利用に供する用途であること
 - ④ 木造建築物の普及啓発に関する取組がなされること
 - ⑤ ZEH・ZEB水準に適合すること
 - ⑥ 伐採後の再造林や木材の再利用等に資する取組がなされること等
- ※先進的なプロジェクトの場合は、有識者委員会等で先進性を評価されること



地上9階建て複合施設事務所
【出典】建設省HP

出展：https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/esg_architecture.

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

53

● 木造木質建築のこれから

- **SDGs・ESG投資の観点から環境建築としての木造建築が世界の潮流であり、日本でも今、木造建築が普及期に**
- **木造木質建築の設計には、防耐火基準の仕組みを理解し、いかに読み解くかがポイント**
- **木造木質化による温もり・癒やしの快適空間としたウェルビーイング評価が定着し、グリーンプレミアム化**
- **耐震・耐火・耐久性能とコストが見合った適材適所の木材利用、鉄やコンクリートを併用したハイブリッド木造建築が一般化**

©Copyright 2025,Takenaka Corporation

54